

## ChatGPT 等の生成 AI の利用について

学生のみなさんへ

令和 5 年 7 月 25 日  
比治山大学・短期大学部  
学長 宮谷 真人

現在、ChatGPT 等の「生成 AI」が急速に普及し、様々な議論が行われています。今後こうした生成 AI と呼ばれる人工知能ツールが、教育や仕事の現場で活用されるようになることが想定され、本学においても、これからのデジタル社会を見据え、学修を深めるための活用が進むことと思いますが、その利用については、以下の点に、注意して下さい。

### 1 個人情報や機密情報を入力しないこと

ChatGPT などの生成 AI は、インターネット上にある情報や対話を基に学習し、回答を出力しています。これは言い換えると、皆さんが生成 AI に対して質問した内容も、第三者への回答に使用される可能性があります。

そのため、質問・指示文章に、個人情報や機密情報を入力してしまうと、情報漏洩につながります。

自分や家族、友人等の個人情報、大学や職場（アルバイト先など）で知り得た情報、発表前の研究論文等の情報は、入力しないでください。

### 2 生成 AI を使って生成した文章や画像をそのままレポートや論文等に使用しないこと

レポートや論文等の作成に、生成 AI を使って生成した文章や画像を、そのまま使用することは剽窃（盗作）にあたります。剽窃が確認された場合は不正行為とみなされ、単位の修得に影響を及ぼします。

また、自らの言葉やアイデアを使って学びを深める機会の放棄にもつながります。

授業等での利用については授業担当教員の指示に従ってください。

### 3 生成 AI が出力した結果は事実とは限らないことを認識すること

生成 AI が出力した結果はすべてが事実とは限りません。嘘や誤りなど、真偽の確認がないものも多くあります。

他の文献で結果の妥当性を確認した上で、あくまでも参考資料との認識を持ちましょう。

### 4 著作権侵害や人権侵害等の倫理性に問題がないかを考えること

生成 AI を使って生成した文章や画像は、既存の著作物と類似性や依拠性が認められれば、著作権等の知的財産権の侵害に当たる場合があります。

また、誹謗中傷やプライバシーの侵害、差別的・攻撃的な表現が含まれている場合もあります。

生成 AI が出力した結果が、こうした権利侵害等にあたっていないかを慎重に考え、軽率な利用を控えることが必要です。

以上、大きく 4 つの注意点を意識し、利用する側として、自らの学修を深め、思考を鍛えるツールとして適切に利用できるように心がけましょう。